科目区分：学部　　授業科目名：数学科教育法Ⅳ
担当教員：藤本 義明

数学科教育法Ⅳの授業評価

所属講座：数学教育　氏名：藤本義明

１．授業の概要

数学科教育法Ⅳの受講者は１０名で、３グループに分かれ、前半は与えられたテーマについて、後半は各グループが独自に設定したテーマについて、調べて授業で発表するという形式の授業を行った。

２．評価方法

評価は、各自へのアンケート調査によって行った。質問項目は以下の７つである。

１．グループの人数は適切だったか
２．グループでの役割分担はうまく行ったか
３．前半で、テーマが与えられていたことをどう思うか
４．後半で、自分達でテーマを決めたことをどう思うか
５．各テーマの発表回数は適切だったか
６．発表についてどう思うか
７．グループでの調査・発表全体についての意見・感想

３．結果

＜１について＞

全員、グループの人数は適切と答えた。

「３人程度だったので、グループ内で連絡が取りやすく、発表準備のためにすぐ集まれたのでよかった。もう少し人数が多くなると集まりづらくなるし、少なすぎると負担が大きすぎるので、今回のグループの人数は適切であると感じる」

＜２について＞

全員、役割分担はうまくいったと答えた。

「グループ内で発表回数が均等になるようにした。基本的には次週発表する人が主に発表内容について考えて他のメンバーは補助的な役割であった。うまくいったのではないかと思う。」

＜３について＞

「テーマが与えられていた分、集中的に調べて発表内容を考えることができたのでありがたかった。特に、最初は何をどうすればよいのかわからなかったと思うので、その分テーマがある方が要領をつかむことができ、取り組みやすかった。」

以下、肯定的意見が多かったが、課題となる意見を示す。

「テーマが漠然としていて、何をしたらいいのかがいまいち分からなかった。もっと的を絞ってほしい。」

＜４について＞

「テーマを決めてしまっていたので、決めていたテーマ外の興味ある事柄を調べることができなかったので、テーマを一つに絞らない方が良いのではないかと思った。」

＜５について＞

「比較的適切であったと思うが、少し多いようにも感じた。もう少し、調べる時間を延ばしてもよい気がした。」

＜６について＞

「発表もただ話すだけでなく、黒板をしっかり利用する、または教材を用意して実際に体験するなどの活動的な発表があっても良いと思う。」

＜７について＞

「この授業では、時間を半分にする理由が分からなかった。その３０分を先生の講義を行うべきであると思った。」

４．分析とまとめ

悪い評価はあまり多くはなかったので、今後も概ね現在の形を踏襲して行きたい。ただし、学生の討論が少なかったので、もっと討論を喚起する必要がある。